

●論壇

人-車系の性格

船 津 孝 行*

The Character of the Man-Machine System

Takayuki FUNATSU*

車社会というときのその社会の構成単位は、車と運転者が一体となった人-車系である。それは喩えてみればサイボーグにも似た新しい一匹の綜合有機体である。この綜合有機体が、ツー・ウェイのコミュニケーション手段を持たないことがスムーズな車輛関係を妨げていることについては、まえにこの欄(Vol. 3, No. 4)で指摘した通りである。

ところでわれわれは、ある人の行動の固執的な傾向を示すために、人格(パーソナリティ)という構成概念を有している。人-車系という綜合有機体の行動を予測し、統制するためにも、人-車系の性格といった構成概念が必要である。いま簡単に、それを人-車格 **vehicularity** と呼ぶことにしよう。

人-車格の構成単位は人格と車格である。このように2分したときの、それぞれの成分については、われわれはすでにある程度の知見を有している。例えば、安全と関連した運転者のパーソナリティについては、すでにあまりにも多くのことが言われてきている。また、車格についても、例えばステータス・シンボルとしての車といった、断片的な幾つかの知見を有している。しかし、ヴィークュラリティという未熟な新造語によって私が意味しているものは、このような両成分の寄せ集めではない。人格が個人の行動に認められる固執的な傾向であるように、ヴィークュラリティもまた、人-車系の行動の固執的な傾向に關説するものでなければならない。

さて周知のように、**Personality** という言葉は、仮面を意味するラテン語の **Persona** から派生したものである。ユングの心理学では、パーソナリティというのは表向きの性格、環境の必要を満たすための仮面、または見かけ **facade** を意味する。車は人-車系の外面である。人-車系の性格をヴィークュラリティと呼ぶことは決して不当なことではない。

スポーツカーであるか、セダンであるか、またはバス、トラック、ダンプカーなどの車のタイプや車種などは、パーソナリティのやせ型、肥満型などの体型に対応する、すぐ目につくヴィークュラリティのタイプである。このような体型のほかにも、われわれが人を判断するときには、例えば一見紳士風のといった具合に、身につけているものや、もの腰などのステロ版によっている。ゴテゴテと飾りたてたトラックなどは、さしずめヤクザのいれ墨に当たるものである。

これまでに述べたことは、ヴィークュラリティの静的な特徴である。ところで、そこで車社会が実現している道路上には、譲り合って協調的に走っている車もいれば、他の車を全く無視して無謀に振舞っている車もいる。われわれが車を運転しているときに、他車についての情報で最も必要なものは、このような走行特性であろう。これがヴィークュラリティの内的な、動的な特性である。そして、このような動的な特性が、静的、外面的な特性と密接に関連していることを否定する者は誰もいないであろう。

研究のパターンまたはデザインのオーダーは、研究されている対象のパターンやオーダーと同じ水準のもでなければならない。車の事故が運転手ではなく、人-車系と環境との界面において生起している現象であるとすれば、われわれは運転手のパーソナリティではなく、人-車系のヴィークュラリティへと研究の焦点を移行させなければならない。

*九州大学教授
Professor, Kyushu Univ.
原稿受理 昭和53年8月29日